



スクミリンゴガイの冬期防除対策について

(水稻、レンコン)

スクミリンゴガイ(通称ジャンボタニシ)は南米原産の淡水巻貝の一種で、特に柔らかい植物を好み、稲(田植え直後の稚苗)やレンコン(幼葉)などを食べます。茨城県内においても水田圃場やレンコン田で発生が確認されています。

本種は寒さに弱く、土中に潜って越冬しますので、圃場内の越冬密度を下げる対策が重要です。特に、暖冬の年は越冬する個体数が増加傾向となることから**冬期の耕うん**を行い、次作の発生を抑えましょう。

参考資料：スクミリンゴガイ防除対策マニュアル(移植水稻) 農林水産省消費・安全局植物防疫課 (R5)

[sukumi_manual.pdf \(maff.go.jp\)](http://sukumi_manual.pdf(maff.go.jp))

水稻スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ) 病害虫資料館 茨城県病害虫防除所

[水稻・スクミリンゴガイ\(ジャンボタニシ\) / 茨城県 \(pref.ibaraki.jp\)](http://water-sukumi-ringo-gai(janbota-nishi)/茨城県(pref.ibaraki.jp))

特 徴



写真1 スクミリンゴガイ成貝

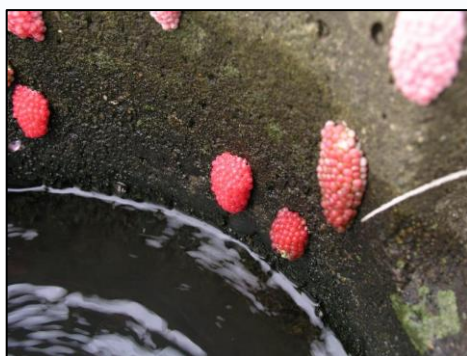


写真2 スクミリンゴガイ卵塊
(写真1、2：茨城県病害虫防除所)



写真3 稲茎葉での卵塊
(卵径2mm)



レンコン茎での卵塊

成貝は殻高が2～7cmで、稲や水路の壁等にピンク色の卵塊を産む。寒さに弱く、越冬個体は地表からおおむね深さ6cm以内に分布している。

また、水路を伝って拡散・定着し、水路に隣接する圃場では取水時や大雨の浸冠水時等に圃場に侵入する。

防 除 対 策

1～2月の防除対策

- ① 水田では、**1～2月の土壌が乾燥して固い時期に、トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転速度を速くし、土壌を細かく碎くように耕うん**することで、越冬個体を物理的に破碎するとともに低温の外気にさらす。複数回行くと効果が高まる。
- ② 本種未発生圃場へ越冬個体の持ち込みを防止するため、使用後のトラクターを洗浄し、付着した泥を落とす。
- ③ 発生が多い圃場に隣接する水路や本種のピンク色の卵塊を確認した水路においては、**1～2月に泥上げ**を行い、越冬場所をなくす。掘り上げた泥は薄く広げて越冬個体を低温の外気にさらす。さらに潰すなどして生き残らないよう処理する。
- ④ 水路の泥上げは地域全体で行うと効果が高まる。また、**掘り上げた泥は、未発生圃場に持ち込まない**。

春夏期の防除対策

- ① **田植え前まで**
 - ・水路から貝が侵入しないよう取水口・排水口へネットや金網を設置する。(9mm程度の網目がオススメ)
 - ・小さい貝はネットをすり抜けるので、浅水管理や農薬散布を併用する
 - ・殺貝効果のある石灰窒素を散布する。
 - ② **田植え時以降**(浅水管理か薬剤散布のどちらかを選択する)
 - ・**浅水管理**：本種は水中でないと摂食できず、また水深が浅いと活動が制限されるため、水深を4cm(理想は1cm)以下に維持する。
 - ・**薬剤散布**：本種は水温15℃以上で活動するので、動いているのを確認してから**スクミノン**(効果：殺貝)、**スクミンベイト3**(効果：殺貝)、**パダン粒剤4**(効果：食害防止)を散布する。その際水深は3～5cmに保つ。
- ※**パダン粒剤4**を散布すると貝がマヒしてスクミノンやスクミンベイトの殺貝剤を食べなくなるので、併用はしないで下さい。



- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。